

平成 30 年度事業計画

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

平成 28 年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は巻 11 保福和尚章第 53 則より始め、雲門和尚章全 12 則及び齊雲和尚章へと読み進める。第二第四の金曜日開催。

②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は休会とする。

③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は巻 17・後洞山師虔禅師、洛京白馬遁寿禅師、越州乾峰和尚、吉州禾山和尚、明州天童山咸啓禅師、潭州宝蓋山和尚、益州北院通禅師を読み進め、且つ原稿化を進める。隔月 1 回開催。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類について独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

①「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸花園大学名誉教授は、『楞伽經』四巻本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤名誉教授を班長に、再構成梵文、漢訳とその訓読を改めて校訂し、和訳をチェックするものである。

本年度は、常盤義伸花園大学名誉教授が本研究会を通じてまとめられた四巻楞伽經梵文、及びその日本語訳を（どういう形になるかは未定であるが）出版する。

②臨濟宗經典研究会〔班長 西村恵学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。前年度に全面的な見直しを行なった『江湖法式梵唄抄』を改編版として 4 月に刊行する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成 30 年度も、哲学分野と大乘仏教の伝統との遭遇の意義を学ぶため、仏典研究会としての「大蔵会」を中心に、また「西田哲学会」、「西谷研究会」を含めた三つの研究会を、各々、年 4 回（三カ月に一度）開催する予定である。研究会全体の指導には上田閑照先生の御尽力を仰ぎ、従来の方針を継続する予定である。但し昨年末の奥様の死去の後に宇治に転居された事情もあり、従来ほどの御臨席は難しくなるが、研究会の主要メンバーが定期的に先生をお訪ねすることによる新たな会合なども計画している。

「大蔵会」では、かつては『大乘起信論』や『華嚴五教章』を長年研究してきた実績を踏まえて、『成唯識論』の解読に取り組んできた。次回にて『成唯識論』第二巻が読了するので、ここを一つの区切りとして、今後は『十牛図』の稀有な注釈書である『十牛訣』の解読と重ねて上田先生の『十牛図』解釈を皆で学ぶ計画である。仏教研究者の大井和也氏によるテキスト（十牛訣）の読み下しを踏まえて、上田先生の『十牛図』理解を学びつつ、現代世界での「仏教」（伝統）の意義などを究明してみたい。会場としては紫蘭会館地下会議室を使用している。

また哲学班の班長の上田先生の御指導のもとに、「西田哲学会」では主著『働くものから見るものへ』に、また「西谷研究会」では『禅の立場』に取り組んでいる。上田先生のご提案で、『夢中問答』の輪読をも同時に行われているが、これらも継続する予定である。

どの研究会にも新たなメンバーが参加し、活発な勉強会になっている。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

①江湖開山等語録研究〔班長 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。今年度は『古月四会録』、徹翁義亨『徳禅寺法度』の訓注を行ない、継続中の月船禅慧『武溪集』を30年度に刊行する。昨年度より継続の『如幻三昧』の訓注本を30年6月に刊行する。

②天龍寺史研究班〔担当：藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成28年度より発足。『天龍寺史』の完成に向け、天龍寺関係史料の収集・編纂作業を行う。『年中記録』その他の天龍寺所蔵記録の内容把握のため、先行して『年中記録目録』の入力作業を行う。また慶長5年（1600）以降の天龍寺所蔵文書の整理・写真撮影を行う。寺外所蔵史料の調査も必要に応じて行なう予定。

以上と並行して、寺内有志の参加のもと、開山夢窓疎石の『夢窓国師語録』上下2巻の輪読会を開催する。

③『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、休止中。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

昨年度に続き、すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調べていく。

また、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」のコンテンツ充実（特別拝観情報取得の効率化も含め）や広報活動を行なうとともに、今後、東京オリンピックにむけてインバウンドの増加が考えられるため、各種助成金の申請を鑑みつつ多言語版制作の検討を行なう。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動中。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

①「禅の至宝」（文化財目録整備事業）

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。現在、禅文化研究所所蔵品岐阜県大仙寺、山梨県恵林寺、埼玉県平林寺のデータは登録済み。本年度、東京麟祥院のデータを追加する。また、調査を終えた京都府円福寺や、「蘇山玄喬展」のために調査したデータも登録する。加えて臨済禅師1150年白隠禅師250年遠諱事業による特別展において集められた情報を基礎データとして追加登録する。

②一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する一般寺院の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースシステムを内部で開発した。当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨する。平成24年より、花園大学歴史博物館と共同で、調査・撮影・データ入力等を順次行っており、今年度は、継続で建仁寺塔頭両足院、滋賀県瓦屋寺（妙心寺派）、熊本県見性寺（妙心寺派・現在花園大学歴史博物館に一時寄託中）の調査を行ない、また、新たに委託を受けている、大本山南禅寺の調査、円覚寺の遠諱事業として依頼を受けた誠拙周樗・釈宗演の図録制作や展覧会のための墨蹟調査も開始する。加えて、妙心寺、岐阜県永保寺（南禅寺派）からの既存データも追加できるか、内容の確認を試みる予定。

2. 資料の収集・整理・公開

①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた37,000点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行なう。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

②WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開する。

③禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。今年度春季展はデジタルアーカイブ事業の成果として、円福僧堂の所蔵品から選定した書画を4月3日～6月2日に「圓福寺 一京都八幡達磨堂 寺宝展」として開催する。秋季には大本山円覚寺での釈宗演100年遠諱を記念して「釈宗演展（仮称）」を開催する。会期中には記念講演会も行なう。

④所蔵墨蹟類の保存・修復【周年関連事業】

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先

し、数年かけて修復する。前年度にまとまった修復を行なったため、今年度の修復はなし。

⑤黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。また原文データベース以外に、基本的な文献の訓読データをもテキストデータベースとして登録していくように推進する。今年度は『永源寂室和尚語録』『懶齋集』の原文テキストを登録する。

⑥誠拙周樗禅師墨蹟資料収集

大本山円覚寺中興大用国師誠拙周樗禅師 200 年遠諱（平成 31 年春）に合わせ、円覚寺の依頼により、共同で禅師の書画墨蹟資料を収集し、情報を整理した上で墨蹟集を刊行する。今年度は、墨蹟集に掲載する資料の調査撮影、ならびに墨蹟集の制作作業をする。

⑦問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無償で応じる。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正や新規登録などを随時行なう。

〈3〉 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、248 号～251 号を発行する。248 号は「戦国時代と禅僧」、249 号は諸宗教を超えた対談の、250 号は釈宗演の特集を予定している。

2. 研究成果の刊行

○中国禅宗史・語録研究班の成果

- ① 『禅宗語録入門読本』 小川隆 (平成 30 年秋刊行予定)
- ② 『中国禅思想史』 伊吹敦 (平成 30 年度刊行予定)
- ③ 『和訳楞伽経』 常盤義伸 (平成 30 年秋刊行予定)

○日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ① 『如幻三昧』 東園寺 (平成 30 年 6 月刊行)
- ② 『訓注 武溪集』 横田南嶺+藤田琢司 (平成 30 年度刊行予定)

○マルチメディア研究班の成果

- ① 2019 年禅語こよみ 湯島麟祥院所蔵品 (平成 30 年 9 月刊行)
- ② DVD 禅僧が語る 小倉宗俊老師 (平成 30 年 4 月刊行)
- ③ 『和尚さんの身体講座』 樺島勝徳 (平成 30 年度刊行予定)
- ④ 『写禅語』 禅文化研究所編 (平成 30 年度刊行予定)
- ⑤ 新装版『仏教東漸』 多田稔 (平成 30 年刊行予定)

⑥ 『禅僧の死に様』 藤田琢司 (平成 30 年度刊行予定)

○臨済宗經典研究班の成果

① 『江湖法式梵唄抄』 改編版 (平成 30 年 4 月刊行)

○その他

① 禅文化研究所紀要 34 号 *電子版と紙媒体 (平成 30 年夏刊行予定)

絶版刊行物をオンデマンドまたは電子書籍として復刊する。

3. 公開講義等

①「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信（花園大学名誉教授）〕

『毒語注心経』（東嶺円慈注）をテキストに禅の基本思想を平易に講義。一般社会人を対象に毎週火曜日 3 時から 5 時まで開催。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

昨年度はホームページをスマートフォンやタブレットにも対応（レスポンシブ化）した。本年度もホームページのコンテンツ更新や「ブログ禅」の更新を行なっていく。また、Facebook や Twitter へも更新情報等シェアしている。

②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

5. 公開講演会等

①公開講演会

企画墨蹟展公開中に記念講演会を開催する。今年度は秋の「釈宗演展（仮称）」の会期中に開催予定。

②教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

昨年度に続き、寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを有料で年 4～5 回（8～10 講座）開講する（会場は京都）。僧侶・徒弟だけでなく一般も受講可能。今年度も計 5 回 8 講座程度を計画予定。講座内容は「東林院精進料理講座」・「日々の花講座」・「地獄絵解き講座」などを予定。

6. 第 14 回東西霊性交流

第 14 回東西霊性交流を 2019 年にヨーロッパで実施する。日本から 5～6 名を派遣予定。今年度はヨーロッパ側との事務手続きを行なう。

7. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館などの各ルートを通じて普及促進するほか、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。季刊誌については、花園会館や南禅寺会館の客室に常備いただいております。新たな購読につなげる。

さらに各地で開催される講演会やセミナー等にも積極的に出向き刊行物の販売を行なう。

Ⅱ. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行なう。最新の Windows10 にも対応済み。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップのための開発準備を進めている。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

①東福寺派管理システムの構築

昨年度受注したシステムの運用をサポートする。

②南禅寺派管理システムの機能追加

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

③建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

④曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートすると共に他の宗務所への営業を促進する。

⑤天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑥妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑦佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑧真言宗管理システムの運用サポート

神奈川宗務支所が導入したシステムの運用をサポートする。

⑨青蓮院管理システムの保守サービス

既存ソフトウェアの保守及び機能追加と改変作業を行なう。

⑩永保寺墓地管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑪藏春寺霊園管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

現在、臨黄 15 派のうち 7 本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

3. 宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア「禅の至宝」を開発。引き続き寺院に向けて販売する。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し、頒布する。

〈2〉 共益事業

1. 臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業

遠諱の全事業を終了し、記録本を 12 月に刊行する。

2. 寺院その他委託出版

- ① 『臨済禅ハンドブック』 妙心寺派宗務本所 (平成 30 年 4 月刊行)
- ② 『臨済禅ハンドブック・高校副読本』 " (平成 30 年夏頃刊行)
- ③ 『臨済宗黄檗宗寺院名鑑』 臨黄合議所 (平成 30 年 12 月刊行)
- ④ 『遠諱記録本』 保存版・普及版 臨黄合議所 (平成 30 年 12 月刊行)
- ⑤ 『若州禅僧伝 (仮)』 若狭相国会 (平成 30 年 10 月刊行)
- ⑥ 『大用国師墨蹟集 (仮)』 大本山円覚寺 (平成 31 年刊行準備中)
- ⑦ 『梅天禅師法語』 妙心寺派正法寺 (平成 34 年刊行準備中)

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

4. 臨黄合議所事務局

臨済宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

- ① 「臨黄会報」の発行 (年 2 回)。
- ② 臨黄互助会の促進。
- ③ 臨黄教化研究会の実施。
- ④ 会議等の事務処理。
- ⑤ 平成 30 年版臨済宗黄檗宗寺院名鑑の編集・制作

5. 日中臨黄友好交流協会

中国仏教界との交流事業の推進。

6. 「ジャポニスム 2018」禅関連事業

フランス・パリで開催される「ジャポニスム 2018」における「禅文化週間」の事務局を担当する。期間は 2018 年 10 月 2 日～7 日。禅を映像やパネルで紹介するほか、坐禅体験や写禅語、さらに特別講演を行なう。専用リーフレットも制作し配布。